

フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションプロジェクト

健康食イノベーション推進事業を通じたヘルスケア産業の創出

Food and Healthcare Open Innovation Project



プロジェクトの取組

【目標】
 ・食を中心とする健康増進社会の実現
 ・異分野の融合によるイノベーションの創出

【指標】
 ・静岡県健康寿命 日本一
 ・食料品等の付加価値労働生産性 日本一

具体的な展開

戦略1：きわめる（研究開発）



オープンイノベーションやデータ活用による研究開発の推進

- ・ファルマ, フォトン, AOI, MaOI, ChaOIとのプロジェクト間連携
- ・大学シーズやSR等の成果の公開
- ・健康データを活用したデータ駆動型の研究開発

戦略2：つくる（製品開発）



競争力のある高付加価値製品の開発

- ・県産農林畜水産物を活用した機能性のある製品開発
- ・優れたものづくり技術による生産性の向上（加工機械、フードロス）
- ・肥沃な土づくりによる豊かな農産物の展開
- ・健康情報を見える化するデバイス等の開発支援

戦略3：いどむ（ヘルスケア）



データヘルスの実践による健康機能の維持・増進

- ・県民の健康データの収集と活用（データヘルス・リビングラボ）
- ・健康課題に対応した製品・サービスの開発（フレイル、メタボ等）
- ・ヘルスケア産業の創出（食や運動を含む健康プログラムの開発）
- ・幼年期の食生活の向上と食育の充実

戦略4：とどける（販路開拓）



社会の環境変化を踏まえたマーケットインによる販路拡大とサービスの提供

- ・地域のブランディングによる商品価値の創造
- ・現代のライフスタイルや健康状態に応じた商品とサービス展開

戦略5：そだてる（人材育成）



産業人材等の育成と開発環境の充実によるクラスター形成

- ・健康講座などによる県民の社会参加促進と健康リテラシーの向上
- ・総合食品学講座の拡充
- ・健康イノベーション専攻の設置（静岡県立大学）

戦略6：ひろめる（情報発信）



「食の都」の内なる国際化と魅力ある静岡の食文化の発信

- ・ハラール等に対応した食の展開
- ・GAPやHACCP等の国際規格への対応支援
- ・静岡型健康食の海外ビジネスの展開

産業競争力の向上



食を中心とするヘルスケアの推進

取組を支える体制

機能性食品開発プラットフォーム

- ・相談から届出、販路まで一貫支援
- ・フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションセンターと県立大学にて整備

化粧品開発プラットフォーム

- ・化粧品素材開発及び製品化を支援
- ・農林水産物の付加価値向上

FHCaOIフォーラム

- ・企業等が集まる出会いとイノベーション創造の場

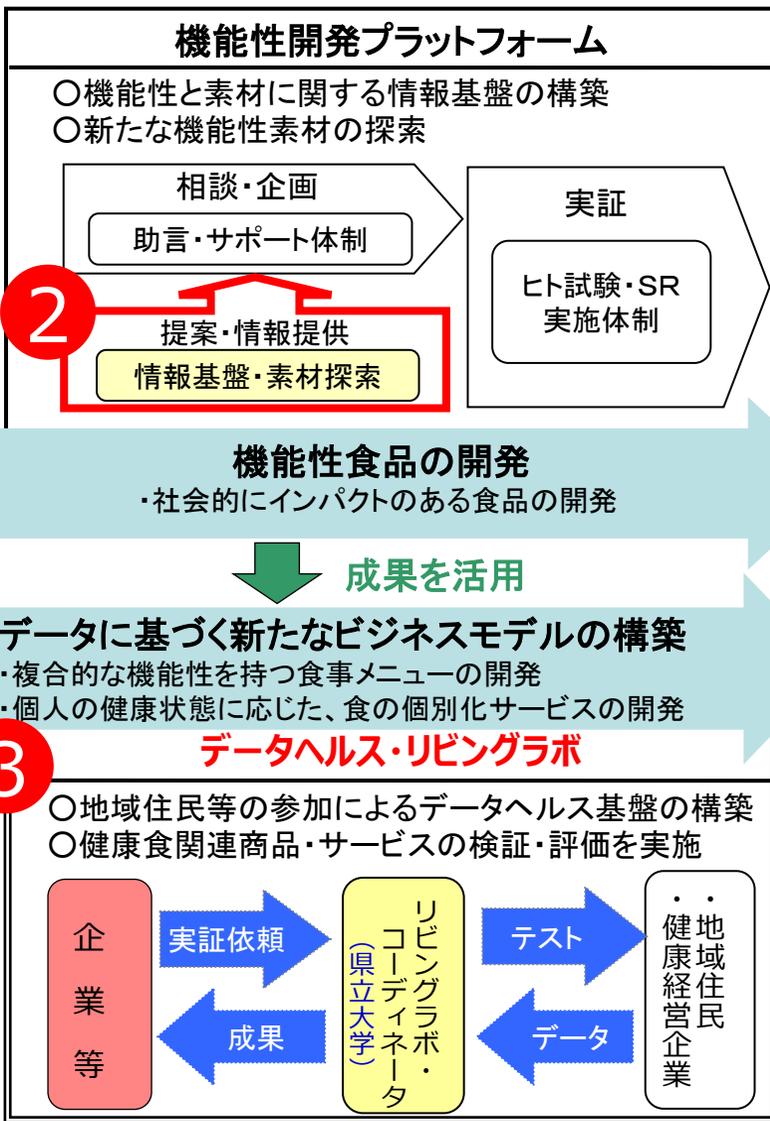
データヘルス・リビングラボ 静岡

- ・県民参加による実証フィールド
- ・サイエンスに基づくデータを収集
- ・新たなサービス創造の場

プロジェクトにおける主な取組（R3事業）

分野	製品開発プロセス				人材育成 開発環境の充実 戦略5
	研究開発 戦略1	事業化 戦略2	販路開拓 戦略4	海外展開 戦略6	
食品	<ul style="list-style-type: none"> 研究機関による基礎研究(64件) 機能性食品開発助成(2件支援) 	<ul style="list-style-type: none"> 食品等開発助成(6件支援) 新事業創造研究会(5部会支援) コーディネーター支援(1,208件) 	<ul style="list-style-type: none"> 展示会出展支援(商談のべ136件) 国内テストマーケティング(22社38品) 地域ブランディング 販路開拓アドバイザー支援(589件) 	<ul style="list-style-type: none"> 海外テストマーケティング(12社30品) DXによる海外販路開拓(5カ国) 海外展示会出展支援 輸出向け商品開発助成(2件支援) 	<ul style="list-style-type: none"> 総合食品学講座(24名受講) 企業誘致の促進(6社)
化粧品	<ul style="list-style-type: none"> 研究機関による基礎研究(14件) 	<ul style="list-style-type: none"> 化粧品開発助成(3件) コーディネーター支援(239件) 	<ul style="list-style-type: none"> 展示会出展支援(商談のべ741件) コスメマルシェ(6社) 販路開拓アドバイザー支援(再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> 越境ECを活用した海外市場調査(2社4品) 	<ul style="list-style-type: none"> セミナー(109名参加) 企業誘致の促進(再掲)
ヘルスケア 戦略3	<ul style="list-style-type: none"> リビングラボ(モニター200人) 研究機関による基礎研究(再掲) 機能性食品開発助成(再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> リビングラボ活用事例(3件) ビジネスモデル構築(5件支援) 健康食メニュー開発(17事業者) コーディネーター支援(339件) 	<ul style="list-style-type: none"> 展示会出展支援(再掲) 国内テストマーケティング(再掲) 販路開拓アドバイザー支援(再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> 海外テストマーケティング(再掲) 輸出向け商品開発助成(再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> 健康イノベーション教育プログラム(59名受講) セミナー(153名参加)

- 1**
- フォーラム**
- 食品メーカー
 - 配食サービス
 - 静岡県産業振興財団
 - 静岡県立大学等
 - 静岡県



事業化・販路開拓

機能性食品の販売

- ・長寿社会で課題となる健康脆弱化や認知症の予防に効果のある食品の販売

健康的な食事の外出施設・介護施設等での提供

- ・「健康」に着目した食事メニューのレストランや小売店舗での提供
- ・介護施設など特定施設での個別化サービスの提供
- ・レストラン・介護施設等と食品メーカー、配食サービス事業者との間での調達・提供のネットワーク形成

支援メニュー

4

人材育成

- ・県立大学に「健康イノベーション教育プログラム」を開設

5

ビジネスモデル開発・事業化

- ・ビジネスモデルの研究開発の委託
- ・先導的研究開発や事業化への助成

6

販路開拓

- ・「メディシェフ」の育成
- ・海外市場の開拓



健康食イノベーションセミナー

【概要】

＜フォーラム運営＞

- 新しい価値を創造し、経済を活性化することを目的としたオープンイノベーションの場であるフォーラムを運営

＜人材育成＞

- R2年度から新たに「健康イノベーション教育プログラム」を開講

その他、関連セミナーの開催

フォーラムの運営

- ビジネスマッチングにより、さまざまな連携が生まれ、新産業を育成するとともに、新しい価値を創造し経済を活性化することを目的としたオープンイノベーションの「場」となるフォーラムを運営

＜R3実績＞

- ・FHCaOIフォーラム会員：1,517会員



様々な業種からなるフォーラム

県立大学との連携による実践教育

○健康イノベーション教育プログラム

データサイエンスの実践スキルの獲得を支援 (県立大学)

10月～2月に6科目を展開

- ①健康と食、②地域産業とマーケティング、
- ③地域企業とSDGs、④ITとデータの科学
- ⑤ビジネスモデル、⑥ワークショップ

＜R3実績＞ 受講者 59人

＜R2実績＞ 受講者 51人



オンラインでの授業の様子

②機能性食品開発のための素材探索研究



「プラットフォーム」から生まれた機能性表示食品
(にんじんジュース、トマト、ブロッコリー)

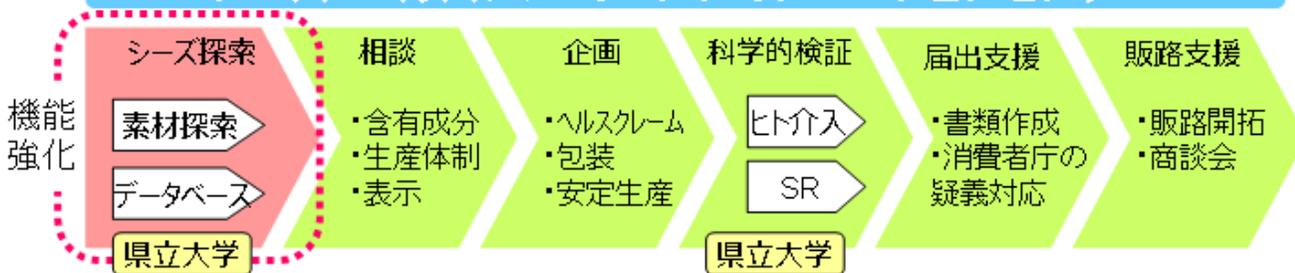
【概要】

- 研究開発から事業化、販路開拓、人材育成などを通じ、高付加価値型の食品の開発を支援
- 全国に先駆けて、相談から科学的根拠の証明 (SR、ヒト介入)、国への届出までを一貫支援する「機能性食品開発プラットフォーム」を設置
- 県立大学にて、機能性素材の探索研究や素材・機能に関する知見情報をデータベースに整備

機能性食品開発プラットフォーム

機能性表示食品の開発を、相談から科学的根拠の証明、消費者庁への届出まで一貫支援

フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションセンター



新たな機能性素材の探索研究

- ・プラットフォームの機能性強化のため、県立大学において、フレイルや認知症等をテーマとした新たな素材探索を研究 (のべ19研究テーマ)
- ・研究成果は機能性食品データベースに順次公開

○新たな素材探索研究の実施

- ・県大における機能性成分研究を強化
- ・ルイル予防・認知症対策をテーマに学内で行われていた研究を整理し重点的に推進

動脈硬化抑制作用を示すBAIBA
(3-アミノイソ酪酸)のフレイルに関連した研究などを実施

○機能性食品素材データベース公開

公開時期：令和3年1月～
掲載内容：研究中素材35件のほか
届出素材8種79商品掲載

DB
掲載



③データヘルス・リビングラボ



データヘルス・
リビングラボ静岡

静岡市（みなくる）

【概要】

○リビングラボとは、身の回りの社会課題を見だし、解決するための新しいサービスや商品を企業や行政等が生活者との共創によって生み出す場

○静岡市地域福祉共生センター「みなくる」を活動拠点とし、地域住民から活動データ等を収集するとともに、参加者の健康増進を図る活動も実施

○収集データと実証フィールドを活用し、県内企業が行う新たなヘルスケアサービスや商品開発を支援

通いの場における健康の見える化事業（実証フィールド）

- ・通いの場に集まる地域住民を中心にウェアラブル端末（Fitbit）を貸出し、自身の健康を見える化することにより、健康リテラシーの向上を促すとともに健康データを収集及びフィードバックを実施
- ・ウェアラブル端末（Fitbit）のほか、食事の栄養価及びバランスや脳の認知機能など、取得データの種類を充実
- ・新たなヘルスケアサービスや商品を生み出す際の実証フィールドとして活用（約200人）

区分	人数※	収集データ
静岡市	305人	<ul style="list-style-type: none"> ・歩数 ・心拍数 ・消費エネルギー ・睡眠時間及び質等
袋井市	54人	

※一定期間データを収集した人数
（R4年1月時点）



健康サブスクランチの商品化（モニタリング）

○飲食事業者による健康食ランチのサブスクリプションサービスの開発

対象：社会人（壮年期）

人数：15名

内容：サブスクリプションランチとして、毎週1回のランチを4週間食べ、アンケートに回答する

→アンケート結果をもとに、商品化を検討

NASUBI GROUP

サブスクランチ
試食モニター



募集

モニター期間：11月30日（火）～12月23日（木）

緑茶成分の睡眠及びストレスへの影響評価（臨床試験）

○大学による緑茶の健康面への影響評価（睡眠及びストレス）

対象：20歳以上の健康な人

人数：84名（二重盲検ランダム化比較試験）

内容：指定する緑茶を飲み、ウェアラブル端末による睡眠の質の確認、唾液検査及び調査票・アンケートにより評価する。

→緑茶の機能性を論文化（エビデンスづくり）

静岡県立大学法人
静岡県立大学
UNIVERSITY OF SHIZUOKA



⑤ ビジネスモデル開発・事業化



NASUBI GROUP

静岡ブランド健康食
(静岡県立大学 × NASUBI)

【概要】

- 健康訴求性を高めた食事提供サービスなど新たなヘルスケアサービスの開発と社会実装を支援（ビジネスモデル創出）
- 新たな機能性表示食品や海外市場の開拓に向けた商品開発に対して助成

健康食ビジネスモデル創出業務委託

- ・「食と健康に関するデータに基づく、健康的な食の提供モデルの構築」をテーマに新たなビジネスモデルを構築し、トライアルサービス（実証）を実施するとともに、広く成果を横展開する取組を支援

事業者	事業内容
(株)竹屋旅館	①健康経営推進企業向けオンラインによる健康コンテンツ提供システム
(株)食の学び舎くるみ	②運動能力向上を支援するジュニアアスリート向け食関連サービス提供システム
静岡県立大学	③静岡ブランド健康食の開発と活用

機能性表示食品等研究開発助成

- ・機能性表示食品等の製造販売を目的とした研究開発や事業化のために行うヒト介入試験や遺伝子解析等の産学共同研究等を支援

<R3実績> 2件採択

(補助率：2/3、限度額：1,000万円)

<R2実績> 2件採択

加工食品輸出スタートアップ支援事業助成

- ・加工食品事業者等が行う海外向け商品開発及び販路開拓・拡大の取組を支援

<R3実績> 2件採択

(補助率：2/3、限度額：200万円)

<R2実績> 2件採択



通販食品展示商談会

【概要】

- 首都圏で開催される展示商談会に静岡県ブースを設置
- 専門家の助言を受けながら、健康に配慮したメニューを開発
- 首都圏でのテスト販売及び商品のブラッシュアップなど新たな販路拡大に向けた取組を支援
- 輸出拡大に向け、オンライン商談や遠隔で売上データを確認できる自動販売機によるテストマーケティングを実施

健康食開発

- 管理栄養士などの専門家とともに県内の**飲食・食品加工事業者等による「健康食」をキーワードとした商品開発**

<R3実績> 14事業者

<R2実績> 15事業者

<R元実績> 5事業者



- スマートミール**（「健康な食事・食環境」認証制度）のメニュー開発及び認証取得



- ・健康づくりに役立つ栄養バランスのとれた食事。
- ・一食の中で、主食・主菜・副菜が揃い、野菜がたっぷり、食塩のとり過ぎにも配慮した食事



首都圏テストマーケティング

- ・東京駅構内の店舗でテスト販売を実施し、販路開拓や商品のブラッシュアップを支援（1品につき2週間陳列）
 - ・また、販売結果報告レポートを個別面談によりフィードバック
- ⇒大手バイヤーとの取引につながる事例あり。（1社2品）
- <R3実績> 参加事業者：22社（計38品）



テスト販売の様子

香港における食品テストマーケティング

- ・自動販売機での販売における購入者のデータを収集・分析したのち、現地バイヤーとオンライン商談会を実施
- <R3実績> テスト販売：12事業者、30商品
- <R2実績> テスト販売：16事業者、32商品（10商品成約）
- <R元実績> テスト販売：12事業者、28商品（10商品成約）



テストマーケティングで成約となった商品

事業成果

区分	成果	備考
機能性表示食品の販売	新たな機能性表示食品への販売までは至っていない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立大学にてのべ19件の基礎研究を実施 ・ 今後は、得られた研究成果を活用した事業化を推進 ・ その他、機能性表示食品等研究開発助成事業を活用した企業について、今後の製品化が予定されている。
健康食提供等ヘルスケアサービスの創出 (健康的な食事の外食施設・介護施設等での提供等)	健康食開発 (34事業者)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食・食品加工事業者等が健康食を開発し、各施設で提供 ・ 一部事業者は、スマートミール（健康な食事・食環境）認証を取得
	ヘルスケアサービス (3事業者)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康経営企業向けの健康コンテンツ提供システム ・ ジュニアアスリート向けに運動能力向上を支援する食事マネジメントシステム ・ 静岡ブランド健康食を活用した新たな外食・中食・配食サービスモデル